

堺市総合防災センター

建築場所	大阪府堺市美原区阿弥129番地	
建物概要	構造/階数：防災啓発施設	鉄筋コンクリート造・鉄骨造/地上2階
	災害活動支援棟	鉄骨造/地上2階
	救助訓練棟	鉄骨造/地上6階
	水難救助訓練棟	鉄筋コンクリート造/地上3階
	総合訓練棟	鉄筋コンクリート造/地下2階・地上5階
	延べ面積：18,899.08 m ²	建築面積：約4,347.50 m ²
環境指標	災害活動支援棟 BEE=1.1(変更後) CASBEE (B+ ★★★)	
	竣工年月 令和3年10月	
事業者	堺市	
設計監理	山下・スペースアート設計共同体	
施工者	建築工事：松村組・日本土木建設共同企業体	
	電気設備工事：藤井電機・Rairig建設共同企業体	
	空調設備工事：永安設備・サニコン建設共同企業体	
	給排水設備工事：日管株式会社 ガス工事：大阪瓦斯株式会社	
	展示：株式会社丹青社	

堺市総合防災センター全景



防災啓発施設



災害活動支援棟



救助訓練棟



水難救助訓練棟（潜水プール）



水難救助訓練棟 (25m プール)



総合訓練棟(全景)



実火災訓練室



排煙处理設備



屋外訓練場



ガイドンスシアター



防災啓発施設内部



防災学習施設(防災情報コーナー)



防災学習施設(災害体験コーナー)



工事写真：令和2年7月1日



工事写真：令和2年12月17日



工事写真：令和3年2月19日



工事写真：令和3年4月2日



工事写真：令和3年6月21日



工事写真：令和3年9月27日



堺総合防災センター 環境指標

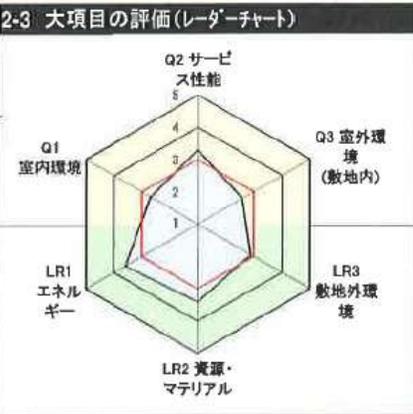
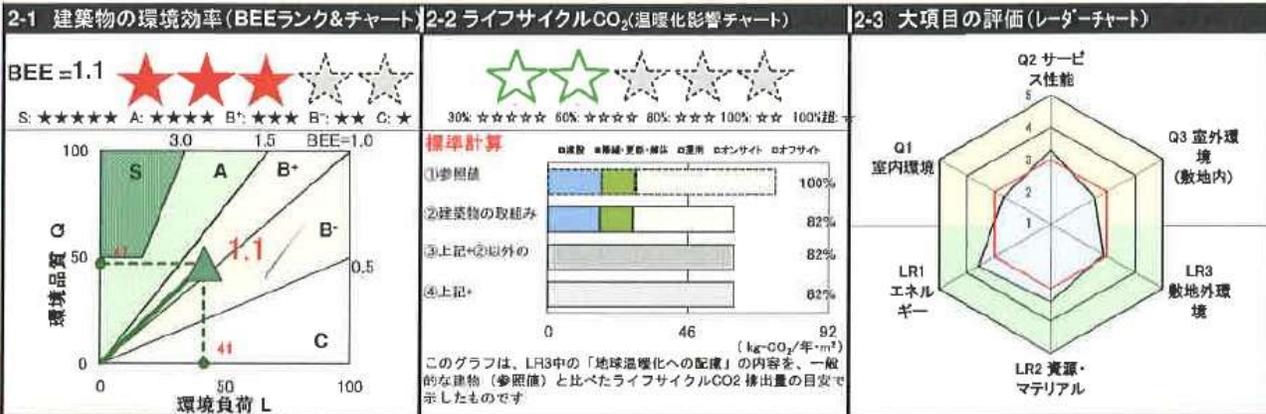
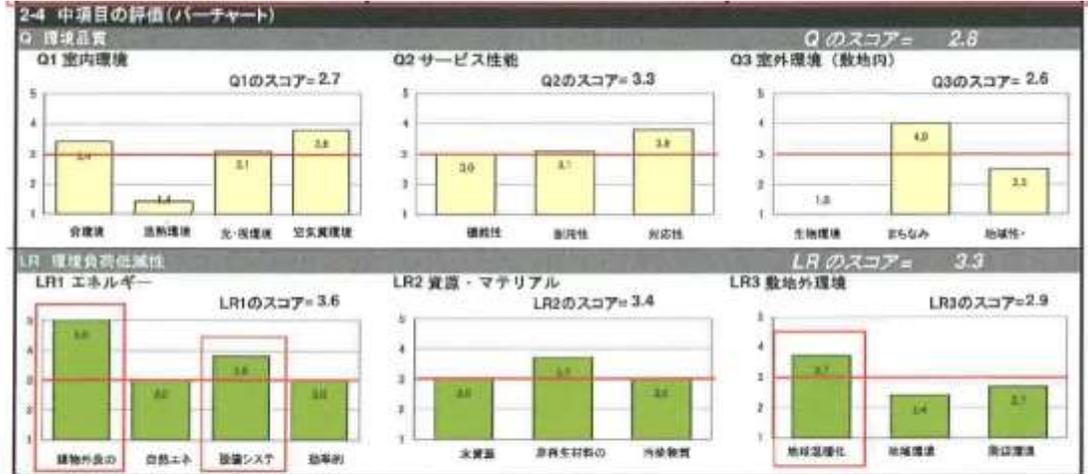
211012【最終】堺市防災④(事務所モデル+工場モデル)CASBEE-BD_NC_2016v2.1(備蓄倉庫・消防隊常駐施設).xlsx

結果

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)堺市総合防災センター	階数	地上2F
建設地	堺市美原区阿弥129番2、129番4、129番6	構造	S造
用途地域	法第22条区域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日	2019年12月20日
敷地面積	18,899 m ²	作成者	松田
建築面積	1,725 m ²	確認日	2019年12月21日
延床面積	2,508 m ²	確認者	河野



3 設計上の配慮事項

項目	その他
総合的かつ、積極的な建物設計としている。	0
Q1 室内環境 十分な開口面積を確保している。	Q2 サービス性能 耐震、耐火性能に優れ、空間の中よりに配慮している。
Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内に配慮している。	
LR1 エネルギー 省エネルギー性能に配慮した設計としている。	LR2 資源・マテリアル 防湿工事のプライマー等、化学物質の使用削減に努めている。
LR3 敷地外環境 LCO2排出率削減に努め、地球温暖化防止に努めている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷削減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ ライフサイクルCO₂とは、建築物の材料生産・建設から運用、解体、解体廃棄に至る一生涯の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

変更後

施設名称 堺市総合防災センター

■設計の配慮項目

環境面の配慮

- ・CASBEE (B+) を取得しています。
- ・防災啓発施設のカーテンウォールに木材を使用しています。
- ・防災啓発施設に太陽光パネル (10kW) を設置し、発電した電力をキュービクル式受変電設備に取り込みピーク負荷の抑制を行います。
- ・総合訓練棟で実火を用いた訓練において発生する、煙や煙を含んだ排水を処理する装置を設置しています。
- ・国道 309 号側に太陽光と風力で発電する LED ハイブリッドポール外灯 (1 か所) を設置しています。(写真参照)
- ・便所等に人感センサーや、便所の器具に節水型を採用しています。
- ・防災啓発施設の屋根に降った雨水を一時貯留槽に溜め、ろ過し便所の洗浄水として利用しています。また、放水の訓練用水や屋外の灌水としても再利用しています。
※防災啓発施設のみ再利用を行っています。
- ・放水訓練で使用した水を集水槽に回収し、ろ過し再利用しています。

建物用途面の配慮

- ・災害対策を迅速かつ確実に実施できるシンプルでわかりやすい施設構成とした配置計画にしています。
- ・災害に備え、非常用発電機を防災啓発施設に設置し、防災負荷及び保安負荷に電源を供給します。
- ・防災啓発施設の北側にマンホールトイレを設置し、地域でできない排水訓練を実施できるようにしています。
- ・屋外訓練場の中央に陸上ヘリポート (臨時離着陸場) を整備し、災害時における緊急輸送活動のための物資、人員等の輸送に対応しています。
- ・総合訓練棟の実火災訓練室では、酸素濃度、一酸化炭素濃度、二酸化炭素濃度等の数値に異常があれば警報が鳴り、室内温度を計測し設定温度を超えた場合はスプリンクラーが作動します。
- ・備蓄倉庫は、平常時は災害時の資機材や生活用品の保管庫として利用し、災害発生時には備蓄物資を搬出した後、支援物資の搬入、保管、荷捌き、避難所等への搬出を行う物資配送拠点として利用します。



LEDハイブリッドポール外灯

- ・照明上部にソーラーパネル (太陽光) とプロペラ型風車 (風力) が一体となった外灯です。
- ・国道 309 号側の出入口付近に設置しています。